

【研究ノート】

# 中学校英語高度化における評価をどのようにするか —新課程における評価の枠組みを用いた 教材の作成—

松本 志津子\*・染谷 藤重

[Note]

How to Evaluate in Advanced Secondary School English Courses:  
Creation of Teaching Materials Using the Assessment Framework in the New Curriculum

Shizuko MATSUMOTO\* and Fujishige SOMEYA

*Accepted October 7, 2020*

**抄録：**本研究では，新課程における評価の枠組みをどのように現場に応用していけばよいのかに関して一つの教材を提示し，その教材の有用性及び活用可能性に関して言及することとする。このワークシートを用いることによって，教員だけでなく生徒も自身の学習内容や到達度を理解することができることとなると考える。「指導と評価の一体化」の観点から一つの解決策を提示したい。

**索引語：**中学校外国語，評価，新学習指導要領

**Abstract:** We present a teaching material on how to apply the framework of assessment in the new curriculum. We discuss the usefulness and applicability of the material. By using this worksheet, we believe that both teachers and students will be able to better understand the content and level of achievement of their own learning. We thus propose a solution from the perspective of “integration of instruction and evaluation.”

**Key Words:** English Education for Junior High School, Assessments, New Course of Study, Integration of Instruction and Evaluation, Teaching Material

---

\* 京都教育大学附属桃山中学校

## 1. はじめに

2020 年度より小学校での外国語が教科化し、新課程による評価が実施されることになった。新課程での評価の枠組みに関しては 2 章において詳説するが、4 観点から 3 観点へ変更され、大きく変わったものとして、「主体的に学習に取り組む態度」が追加された。この 3 観点をどのように評価していくかが現在の課題になっている。

また、小学校検定教科書を受けて、2021 年度より中学校における新検定教科書が導入される。それによって、小・中学校がさらに、密に連携していく必要があると考える。小学校から中学校へ評価を適切に繋げていくことが今後重要視されるであろう。

本稿では、現中学校検定教科書に焦点を置いて、評価の 3 観点をどのように評価するかについて言及し、新課程における評価の枠組みを反映した教材（ワークシート）の作成を行うことを目的とする。この試みが、今後の中学校外国語の評価に対して、有効に作用することを期待する。

## 2. 新課程における評価の枠組み

### (1) 新学習指導要領の 3 つの観点について

新しい学習指導要領が示され、学習内容だけでなく、評価の観点も刷新された。今回の改訂のめざすものは何なのかを下記に言及する。

知・徳・体にわたる「生きる力」を児童生徒に育むために、「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標、内容を「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の 3 つの柱に再整理した。知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指すにあたっては、各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図ること、その際には、児童生徒の発達の段階や特性を踏まえ、資質・能力の 3 つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意する必要がある。

(図 1)

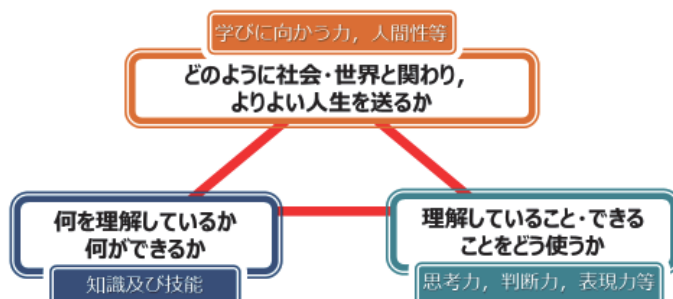


図1 児童・生徒の目指す資質・能力の三つの柱

(国立教育政策研究所, 2020, p. 6)

つまり、「何ができるようになるか」を学習者と指導者が共有し、3つの柱に挙げられた資質・能力をバランスよく育成していくことを目標にしている。1980年から約30年にわたり「ゆとり教育」の実現に向けて歩んできた学校教育は、2011年の改訂で、「脱・ゆとり」からのシフトチェンジを行い、授業時間の増加を盛り込んだ。それに続く今回の改訂は、予測困難な時代を迎え、持続可能な社会の担い手として、新しい価値を生み出す力をつけさせたく、多様性への理解や主体性、問題解決能力の育成を目指し、知識理解の質を高め、確かな学力を育成しようとしていると考えられる。そこで、それぞれの資質能力は具体的にどんなことを表しているのかは、次のように言える。(図2)

- ①知識・技能 丸暗記や公式を覚えて計算をするだけなどの断片的な知識ではなく、理解を伴ったその事柄の背景まで含めた知識や技能。
- ②思考・判断・表現 基礎的な知識・技能をうまく活用しながら、さらにその先を自分なりに考え、情報の真偽などを判断し、考えたことをわかりやすく人に伝えるために表現する力。得た知識を批判的に検討し、真偽を追求し「自分はどうか考えるのか」が重要である。
- ③主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けようと粘り強く学習に取り組む量的な学習、学習のPDCAサイクルを創り出し実践していく質的な学習の両方が主体的に取り組める態度である。(図3)

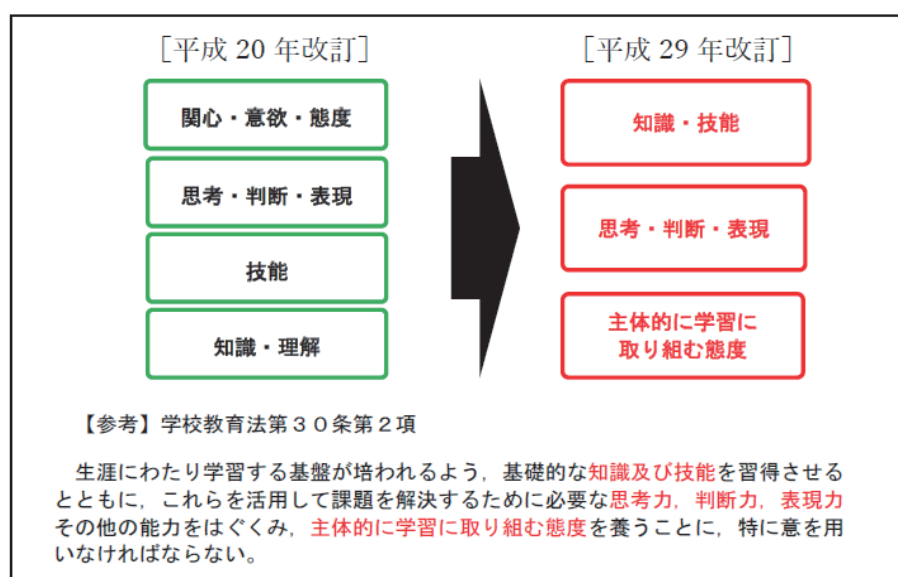


図2 評価観点の変更点

(国立教育政策研究所, 2020, p. 6)

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

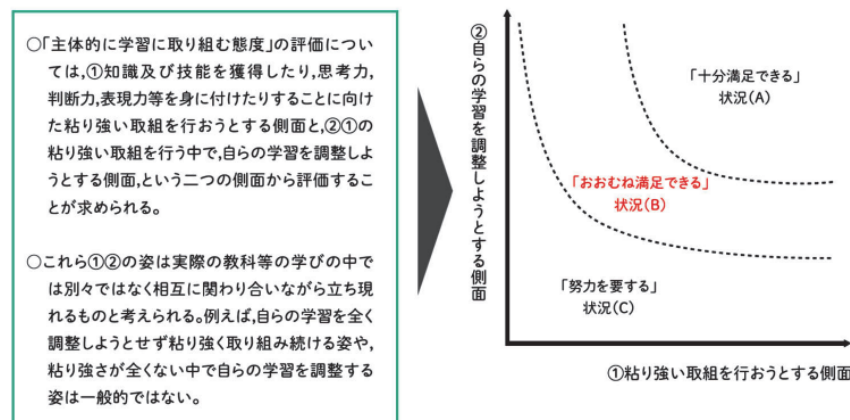


図3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ

(国立教育政策研究所, 2020, p. 10)

上記に示した新しい評価の観点のねらいが、教育実践で具体化されることが急務である。

## 3. ワークシートの作成

### (1) ワークシートの概要

2章で言及したように、新しい学習指導要領が示され、評価の観点が新しくなり、次の3つとなった。以下は各観点とその解釈である。

- ① 「知識・技能」：丸暗記をするだけなどの断片的な知識ではなく、その事柄の背景まで含めた理解を伴った知識や技能。
- ② 「思考・判断・表現」：基礎的な知識・技能をうまく活用しながら、さらにその先を自分なりに考え、情報の真偽などを判断し、考えたことをわかりやすく人に伝えるために表現する力。得た知識を批判的に検討し、真偽を追求し「自分はどうか考えるのか」表現する力。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」：知識や技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けようと粘り強く学習に取り組む量的な学習、学習のPDCAサイクルを創り出し実践していく質的な学習の両方が主体的に取り組める態度。

よって、これらの3観点を基に、今後の中学校英語に関しては、評価を進めていく必要がある。

評価を基に、生徒にとって、どのような学力の育成が目指されていて、その目標に向かってどの程度まで到達したかを知ることは、生徒が学習を進める上で大変重要であり、目標や評価の観点を意識し、学習できることで、生徒はバックワードデザインで学習を進めることができ、習熟度を掴むことができるようになり、形成的評価を自分自身で行うことができるようになるのではないかと考える。教師はそのことを踏まえ、単元の目標、評価の内容や単元の計画を生徒に示す必要がある。こうして目標や単元の計画を生徒と共有することで、指導が評価と一体化したものとなり、根拠をもった評価を与えることができるようになるかと考える。さらに、評価は生徒の学習目標に対する到達度を評価するだけのものではなく、教師の指導の改善のためにも重要である。教師は、生徒が記述したことから、

指導課程を振り返り、定着の度合いなどを見取り、授業改善を進めることができる。樋口（2012, p.208）において、「授業の流れを具現化したワークシートを作成し、使用することによって授業のフォーマットを定着させたい。題材や言語材料によって多少の違いはあるが、基本的な授業の流れを理解させると生徒は安心して授業に取り組める。」と述べられている。

そのような機能を兼ね備えた評価に関するものを授業で使うことができないかと考え、ワークシートの作成を試みた。

ワークシートの構成は、1. 目標や学習時間の確認（単元の目標、Can-Do List、評価の観点、学習時間）2. 学習内容の記録（観察法、作品法）3. リフレクション（自己評価法・相互評価法）の3点で、生徒が学習する単元の目標や学習時間を念頭に置きながら、学習を進めていき、単元が終了した時に、目標に対して学びがいかんに習得されていったか過程を最後に振り返るという流れになっている。

ワークシートを、単元毎に作成する理由として、単元、Can-Do Listに明記される目標を意識するために適切な分量であり、そのことから、生徒はこの単元の学習の目標達成のために集中でき、動機づけにもつながるだろう。仮に、毎授業もしくは活動毎に配布すると、単元を通した学習履歴を見渡すことが難しくなり、学習内容につながりが見いだせなくなる。学期や年間を通したものを作成する場合は、全体像の把握には良いが、期間が長く、計画が変更を余儀なくされた場合など、柔軟な対応が難しくなる。また、冊子の厚みが出るなど管理が困難で、回収の頻度も少なくなり、生徒の記述内容を細やかに評価することが難しくなり、助言する機会を失い、形成的な評価を与えにくくなると考えられる。これらの理由により、ワークシートは単元毎に作成し、冊子にして配布するのが良いと考えた。

このワークシートは『New Crown 1』（三省堂、2016）のUnit 9を参照しながら作成した。

## （2）ワークシートの意義・目的

新しい評価の導入に当たり、生徒と教師の間で何が評価をされるのかを共通確認しておく必要がある。そこで、評価の観点を明らかにし、具体的にどんな力をつけようとしているのかを明示されているワークシートは、生徒にとって、評価の観点を具体化したシラバスとしての機能を備えたものになるだろう。

また、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際、生徒自身の思考や判断したことを表現したもの、学習過程に生じた学習に対する意識や行動の変容などは、授業における行動、発言、発表や態度を観察法で見とるだけでは十分な評価が難しいと予想される。そのために、生徒の記述や、記録をポートフォリオとして残すことで、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む意欲」が根拠を持って評価できるようになるだろう。こうした記録の保存は生徒、教師両方にとって学習履歴を振り返るための有効なものになると考えられ、自己教育力を高める。

ポートフォリオを自己教育力につなげていくために、市川（2002, p.58）は、「自己評価がメタ認知的な活動を伴った、甘くも厳しくもない適正なものになるまで高めていかなければならないということである。そのために、教師は、自己評価を意識化させ、自己評価したことがよりよい問題解決の方向修正や新たな問題解決に向かうように、そして、メタ認知というより高次な自己評価活動に向かうように支援を行うことが必要である」ということを言及している。

### (3) 具体的な使用方法

新しい単元が始まる前に、ワークシートを作成し、冊子の状態にして生徒に配布する。単元の1時間目には、単元目標、Can-Do List、授業時間を確認し、その後は授業展開により、学習した内容を記録していく。回収は生徒の紛失などを考えると、毎時間した方がよいが、レポート作成のために、自宅に持ち帰り学習したいという生徒もいると考えられるため、指導者の利用の仕方によるところが大きい。

単元の学習が終了した際、生徒全員から、必要事項を記入されたものを回収し、各観点の評価作成のための材料、生徒の変容を捉えるための成果物として、または生徒の習熟度を確認し、教師の授業改善のためなどに活用することができる。

ワークシートの中で、教師が生徒の記述を評価する内容がある。A, B, Cに加えてSも設定した。記述の内容や量など、生徒が著しく向上が見られた場合、評価できるものとして利用できると考えられるが、評価は3観点なので、整合性を持たせA, B, Cでもよいと考える。

高木(2017)は、観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せ、又は、A, B, Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では3段階で表し、中学校では5段階で表す。A, B, Cで示された質的な評価を総括し、その結果を評定として、5, 4, 3, 2, 1という数値で示すことへの困難さ。質的な評価を数値によって示すことには、無理・矛盾があると述べていることから、評定として適切に数値化することは、今後さらに研究が必要であると考ええる。

「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際、文章記述からどこを評価するのが難しいと予想されるが、前述したように、知識や技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けようと粘り強く学習に取り組む量的な学習、学習のPDCAサイクルを創り出し実践していく質的な学習の両方が主体的に取り組める態度を見るという観点を示し、その点を踏まえさせることで、より根拠のある評価が可能になると考える。

## 4. 作成したワークシートの一例

本研究で、作成したワークシートを下記に示す。下記の四角で囲まれた部分が実際のワークシートの内容を示している。その下の部分に具体的なワークシートの内容及び使用方法を記述する。

## (1) 目標の明示

### 1) : 目標

#### Goal

- ☒ 間違ふことを恐れず積極的に理由をたずねたり，説明したりする会話に取り組んでいる。
- ☒ Why ～?で理由をたずねたり，Because ～.で説明したりする会話をする事ができる。
- ☒ Why ～?でたずねたり，Because ～.で理由を説明したりする表現の知識を身につけている。"

#### Can-Do List

- ☒ 学校生活について，短く簡単な記事を書くことができる。
- ☒ 絵や写真がついていれば，身近なトピックについて書かれた短い記事を読んで，その要点を理解することができる。

#### 評価の観点

- ☒ 知識・理解・・・語彙・文法・英文の読解ができるようになる。
- ☒ 思考・判断・表現・・・理由や根拠を考え，判断して自分の意見を述べる
- ☒ 主体的に学習に取り組む態度・・・学習計画を自分で立て，計画に沿って学習を進めていくなど。

授業時間 8時間

生徒，教師が単元のねらいについて共通確認するために，Goal，Can-Do List，評価の観点や具体的な内容，授業時数を明記する。教育出版株式会社編集局（2015）によれば，Can-Do List を明記することにより，到達可能な目標が明確になり，生徒のモチベーションが高くなり，学習の習熟度を自己評価しやすくなる。教員間でも指導内容が共通理解でき，より多くの言語活動を入れた授業展開ができるようになり，以下の効果が期待される。

- ① Can-Do List の作成を通して，教員同士が指導に関する共通理解をもつことができる。
- ② 具体的な目標をもって指導と評価を行うことができる。
- ③ より多くの言語活動を取り入れた授業になる。
- ④ パフォーマンスについて評価する機会が増える。

上記のような利点から，これらのねらいを生徒も教師も効果的に活用したい。

## (2) 学習内容の記述

### 1) 導入

Introduction: Pick up the key words about Japanese culture as many as you think of.

続いて，この単元のトピック（four seasons）を提示し，それに関するキーワードに絞っていく。

The topic in this lesson is ( ) Pick up key words as many as you hit upon.

生徒が学習以前に有する知識を残し、単元の学習が終わった時にトピックに関する知識や関心に変化したかを見ることができる。

## 2) 語彙

- ① ☒ 知識・理解 Vocabulary in this lesson  
 ② ☒ 知識・理解 語彙・文法・内容理解 1-9-1-WORD BANK 時を表す言葉 p.113

新出語彙一覧表を付け、語句の意味を確かめる時に利用できるようにする。

Today, yesterday, two days ago, last week, last month, last year, two weeks ago, two months ago, two years ago, this morning, this afternoon. (数直線に順番に書き込んでみよう!)



単語の暗記ではなく、語句の理解から時制の概念を獲得できるようにしたいと考える。小学校で習得した知識も使えば、多くの表現が出てくると考えられる。さらに次年度に習う未来の表現にも触れることができる。

## 3) 内容理解

- ③ ☒ 知識・理解 語彙・文法・内容理解 1-9-1 p.112

以下の英文を読み、「私」がしたことを日本語で要約してみよう。使った情報には下線を引いておこう。

I visited many places last year. I talked with many people. I posted many pictures on my blog. They show my life in Japan. Look. These are my favorites.

④ ☒ 知識・理解 語彙・文法・内容理解 1-9-2 p.114

Ken と Emma の会話を日本語で要約してみよう。使った情報には下線を引いておこう。

Ken: Did you have fun last weekend?

Emma: Yes, I did. I went to Akita. I saw a lot of kamakura.

Ken: Did you make a kamakura?

Emma: No, I didn't. Some volunteers made them. I ate rice cakes in one.

ここは、まとまった英文の内容理解を評価したい。総括的な評価への利用というよりは、形成的な評価のために利用でき、内容理解が難しい生徒を抽出することができる。また、(岡, 2020, p.178) は、要約もリーディングテストで行われることの多い問題形式だが、英語での解答を求めれば発信力を問う問題として使用できるとあるように、この要約を用いて、ストーリーテリングなどの別の活動につなげることも目指したい。

4) 文法

⑤ ☒ 知識・理解 語彙・文法・内容理解

過去を表す動詞を見て、どの語が変化したものなのか考えてみよう。

1-9-2-WORD BANK p.115

made a cake/ swam in a pool/ ate out / bought a present/ saw a movie / ran in a race/

went on a trip/ had a good time

|      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| make |  | run  |  |
| swim |  | go   |  |
| eat  |  | have |  |
| see  |  |      |  |

小学校との接続が見られる所で、音声で十分慣れ親しんだ動詞の過去形を、現在形と文字を使って対照させ、英語の動詞は、過去形になると変化するものがある文法的な概念を理解することができる。

## 5) 英作文

⑥ ☒ 思考・判断・表現 先週自分がしたことを英文にしてみよう。

例: I had a good time with my grandmother last week. She and I went to Kyoto Aquarium and saw a big shark.

(1) \_\_\_\_\_

(2) \_\_\_\_\_

(3) \_\_\_\_\_

S・A・B・C

習った知識（語彙や文法）を活用して、自分が過去にしたことを英文で表現できるようになったかを評価することができる。記録があることで、授業中だけでは評価できなかった生徒の表現内容を、丁寧に評価したり、添削することで、つまずきに気づかせたりすることができる。

## 6) 読解

⑦ ☒ 知識・理解 語彙・文法・内容理解 1-9-Reading p.116

次のA~Dはブログの記事です。書かれている出来事が行われた日を考え（ ）にA~Dの記号を答えなさい。また、その季節はいつか【 】の中に英単語で書きなさい。

A: Our school had its sports day today. Many people came. We ran races. We jumped rope.

We played tug-of-war. My team did not win, but win or lose, we all had a good time.

B: I visited a friend of mine in Kyoto. I saw okuribi on the mountain. My friend said, "The fire is for our ancestors' spirits." I learned about obon.

C: I just got back from my first day at school. I saw cherry blossoms in the schoolyard.

I met my classmates and teachers. I wrote my name in Japanese. My school life in Japan started today.

D: I visited a shrine on New Year's Day. I hoped for good luck, and I drew an omikuji. I got daikichi! Japanese culture is interesting.

April 5

記号:

Season:

August 16

記号:

Season:

October 10

記号:

Season:

January 1

記号:

Season:

まとまりのある英文の内容理解ができているかを評価できる。ここは、生徒がどの程度、英文の理解の習熟度が見られ、個別の支援にもつなげられる。

# 7) 会話文

⑧ ☒ 思考・判断・表現 Why と Because を使ってクラスメイトの好きな季節とその理由を聞こう。

My favorite season: ( )

Reason: ( )

Your friend's name ( )

Favorite season: ( )

Reason: ( )

S・A・B・C

単元目標に明記されているタスクである。自分の好きな季節を理由をつけて言うことができ、またクラスメイトに、Why や Because を使ってやりとりをし、友達の好きな季節を質問し、その理由を知ることができるようになったかを評価できる。クラスメイトの意見を聞き、自分の意見を再構築することができる。望月（2019, p.108）は、Vygotsky の言葉を用いて、社会文化理論（Sociocultural Theory）の観点からインタラクションにより生徒の発達の可能性を重視している。この理論では、生徒が実際の発達レベルから、一人だけでは到達できないひとつ上の発達レベルに至る最近接発達領域（the Zone of Proximal Development ; ZPD）の中にいるとき、インタラクションの中で、教師や他の生徒から足場掛け（scaffolding）という補助を受けることができれば、上のレベルに到達できるとされている。この概念は、ペアワークやグループワークにおける協働学習あるいは、学習指導要領の対話的学習の成果と関係が深い状態にあるように、ペアの組み方にも配慮が必要で、教師は机間指導で適切な支援を行う必要がある。

⑨ ☒ 思考・判断・表現 日本の四季の中でおすすめの季節を1つ選び、日本に来たいと思っている外国人に勧めてみよう。

A foreigner: I want to go to Japan so much. Which season is the best for the trip to Japan?

You: ( )

A foreigner: Why do you think so?

You: ( )

A foreigner: I see. Your opinion was so good that I would go there in ( ).

Thank you.

S・A・B・C

誰に言う内容なのか、場面設定して、思考判断し、表現する場面。先の活動内容を踏まえ、自分はこの季節がいいと判断したのか、理由と共に表現ができるかが見られる。

### 8) 英作文

☒ 思考・判断・表現

☒ 主体的に学習に取り組む態度

⑩学校のホームページに記事を依頼されました。あなたの学校生活でおすすめの季節を1つ選び、5文程度で記事を書いてみよう。

---



---



---



---



---

S・A・B・C

Can-Do List に明記されている活動である。自分の所属するコミュニティについての説明ができるかどうかを評価する。日本の四季や学校の1年の行事を含めて、どのように考え、判断し、表現しようとしているのかが評価できる。教科書の巻末の語彙、辞書などの活用の有無なども英文からも見とり、主体的に学習に取り組んでいるかも評価したい。

### (3) 主体的な学習に取り組む態度の評価

⑪☒ 主体的に学習に取り組む態度 (学習レポート)

この学習を終えて、興味や関心、疑問が生まれて調べたことなどがあれば書いてみよう。  
調べたことがあれば、出典やサイト名も明記しよう。

S・A・B・C

小レポートの記入箇所を挿入する。今回の単元の学習より、自分が興味を持った内容、文法や語彙などを自由に学んだことを書く。このことで、主体的な学習に取り組む態度を見ることができる。主体的に学習したことなので、内容にはこだわらず、調べた方法などを明記させ、主体的に学んだプロ

セスにも注目し、評価したい。

|                                     |                                                                                      |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑫Reflection 単元全体を通した振り返り            |                                                                                      |
| Goal                                |                                                                                      |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 間違うことを恐れず積極的に理由をたずねたり、説明したりする会話に取り組んでいる。<br>(A/B/C) ⑧                                |
| <input checked="" type="checkbox"/> | Why ～?で理由をたずねたり、Because ～.で説明したりする会話をする事ができる。<br>(A/B/C) ⑧⑨                          |
| <input checked="" type="checkbox"/> | Why ～?でたずねたり、Because ～.で理由を説明したりする表現の知識を身につけている。<br>(A/B/C) ⑧                        |
| Can-Do List                         |                                                                                      |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 学校生活について、短く簡単な記事を書くことができる。<br>(A/B/C) ⑩                                              |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 絵や写真がついていれば、身近なトピックについて書かれた短い記事を読んで、その要点を理解することができる。<br>(A/B/C) ⑦                    |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 主体的に学習に取り組む態度 ⑩⑪この単元の学習で、自分で進めた学習内容、学習時間(量)、うまく学習できたこと、またはうまくいかなかったことなどを振り返って書きましょう。 |
|                                     | _____                                                                                |
|                                     | _____                                                                                |
|                                     | _____                                                                                |
|                                     | _____                                                                                |
|                                     | _____                                                                                |

目標、Can-Do List に対する自己評価を記入し、到達度を客観的に振り返らせる。そのために、授業で取り組んだ活動がどの評価と合致するか、ワークシートの番号で表している。

主体的に学習に取り組めるには、生徒の「自律」が生まれる環境を作り出さなければならない。そのために、選択と責任、振り返り、シェアリング、生徒の声の反映、プロセスを重要視する、トピックやテーマの精選などに留意することが言われているが、その中でも振り返りについては、樋口(2012, p.204)は、自己を対象化し、自分の英語能力を客観的に捉えるといったいわゆるメタ認知能力を高めることは、非常に大切である。(中略)文章化・言語化させるようにしたい。～ができるようになった、～ができないので、できるようにしたいといったポジティブな表現がたくさんできるように教師が導いてやりたいとあるように、生徒が踏んだ学習プロセスを肯定的に振り返れるような活動になるように、教師が促進していきたい。

## 5. 今後の課題と展望

新しい評価の観点に基づいて、単元の流れを考えたことで、具体的な授業内容との関連が見えてきた。一方で、3つの観点には関連があり、知識・理解を獲得し、それが思考・判断・表現の力につながり、主体的に学ぶ態度が生まれるとされていることより、各観点を切り離して評価することができるのか、また、今回提案したような生徒自身の振り返りによる評価と、試験で測った習熟度をどれぐらの割合で評価に盛り込むといいのかに関しては、今後の研究課題となるだろう。

しかし、このワークシートの例のように、生徒と教師が目標や評価の観点を共有することで、指導と評価が一体化を実現し、自己評価が容易になり、主体的な学習を進めやすくなることと考える。

## 参考文献

- 市川洋子・貫井正納 (2002). 「子どもの自己評価の変容：ポートフォリオ評価を取り入れた総合的な学習を通して」『千葉大学教育学部研究紀要』第50巻, 57-67.
- 岡秀夫 (2020). 『新学習指導要領に対応した英語科教育法 新・グローバル時代の英語教育』東京：成美堂.
- 高木展朗 (2017). 『平成29年12月11日教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ資料1』[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/080/siryo/1399427.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/080/siryo/1399427.htm) (2020年08月26日検索)
- 教育出版株式会社編集局 (2015). 『学校英語 CAN-DO リスト 作成のための手引き (平28教 内容解説資料)』[https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/chuu/eigo/files/candotebiki\\_Eng.pdf](https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/chuu/eigo/files/candotebiki_Eng.pdf) (2020年08月26日検索)
- 望月昭彦・保田章・磐崎弘貞・卯城裕司 (2019). 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』東京：大修館書店.
- 国立教育政策研究所 (2020). 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東京：東洋館出版社.
- 樋口忠彦・並松善秋・泉恵美子 (2012). 『英語授業改善への提言「使える英語」力を育成する授業実践』東京：教育出版.
- 文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 (平成29年7月—平成29年告示)』東京：開隆堂.